

若いうちから気を付けよう！

脳血管障害で治療を受けている総数（令和5年時点）は188万人で疾患の内訳は脳梗塞133万人、脳出血20万人、くも膜下出血6万人、その他疾患30万人です。また、脳血管障害による死亡は死亡原因の7.5%で悪性腫瘍、心疾患、老衰について4位と非常に多いです。

高齢者に多いイメージですが実は30代～40代でも発症します。働き盛りで家族を支える存在の人が発症すると、その人の人生だけでなく家族や周囲にも影響が及びます。

放っておかない高血圧！！頭のMRI検査はいつ受ける？

脳血管障害で若い世代に多いのは脳出血です。脳出血の発症者には健康診断で高血圧を指摘されていたにもかかわらず放置していたケースが多いといわれています。高血圧は静かに忍び寄るサイレントキラーと呼ばれています。

脳ドック（頭のMRI）で未破裂の動脈瘤や血管奇形などが見つかる場合があります、自覚症状はなくとも把握しておく事は脳血管障害リスク予防においても大切です。

MRI検査は侵襲性なく頭の血管を描出できる唯一の検査です。

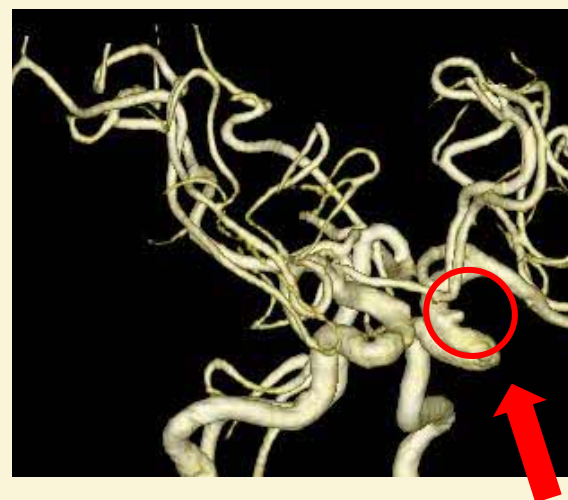


脳動脈瘤とは

脳の血管の一部がふくらんで風船のような形になることを脳動脈瘤といいます。

脳動脈瘤は人口の2～6%に見つかりますが無症状のことが多く、脳ドックなどMRI検査を受けて初めて見つかる場合がほとんどです。原因は残念ながら解明されていませんが高血圧、喫煙、遺伝などが関連していると考えられています。

大きくなると破裂する場合があります、くも膜下出血を引き起こします。



脳動脈瘤

くも膜下出血

脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血は約30%の方は治療により後遺症なく社会復帰しますが、約20-30%は初回の出血で死亡し、約40%は後遺症を残し社会復帰困難となる恐ろしい疾患です。脳動脈瘤が見つかったからといって必ずしも手術が必要なわけではありません。手術適応については動脈瘤の大きさや形状、部位など個々の症例に対して判断されます。

MRI検査は未来の自分を救う30分の検査とも言えるかもしれません。